

◆ 今週のコメント

- ・ **バンコマイシン耐性腸球菌感染症**の報告が1例(男性, 50歳代)あります。症状は発熱, 菌血症で, 推定感染地域は国内, 感染経路は不明です。
- ・ **インフルエンザ**の定点当たり報告数は, 16.43(1,068例)です, 第5週をピークに4週連続で減少していますが, 依然として過去5年平均値を大きく上回っています。京都市衛生環境研究所で検出されたインフルエンザウイルスは, 1月はA(H3)亜型が主流で, B型の割合が4.3%でしたが, 2月には33.3%と, B型の割合が増加しています。今後の動向に御注意下さい。
- ・ **感染性胃腸炎**の定点当たり報告数は7.37(280例)です。第3週(1月16日～22日)に11.05とピークとなった後, 第5週(1月30日～2月5日)以降, 横ばい状態が続いています。京都市衛生環境研究所で平成24年に受け付けた感染性胃腸炎の検体から, ノロウイルスGⅡ型が31件, ノロウイルスGⅠ型が1件, アデノウイルス2型が2件, アデノウイルス40/41型が1件, ロタウイルスが4件検出されています。4月に実施される診療報酬改定において, 「3歳未満の患者」及び「65歳以上の患者」などのノロウイルス抗原定性検査が新たに保険収載になりました。以下を御参照(175～176ページ)下さい。
<http://www.mhlw.go.jp/bunya/iryohoken/iryohoken15/dl/2-25.pdf>

◆ 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は, 1.89(72例)で, 先週(1.82)に引き続き過去5年平均値を大きく上回っています。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数把握の感染症

- ・ 五類: 急性脳炎 1例(第6週追加)【1月以降の累積報告数 3例】
- ・ 五類: バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 1例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点65, 小児科定点38, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	16.43	1068
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.37	280
	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.89	72
	③ 水痘	1.00	38
	④ 突発性発しん	0.45	17
	⑤ 流行性耳下腺炎	0.32	12
眼科	流行性角結膜炎	0.40	4

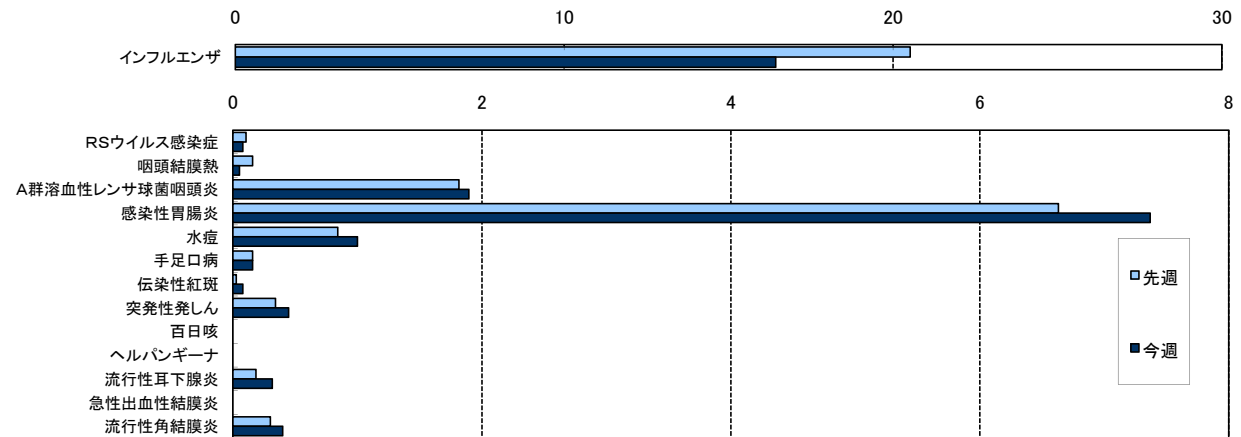
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

(注) 京都市のデータは, 平成24年3月8日現在の報告数で, 全国の還元データと若干異なる場合があります。また, 本情報での患者数は, 届出医療機関所在地での集計で, 患者の住所を示すものではありません。

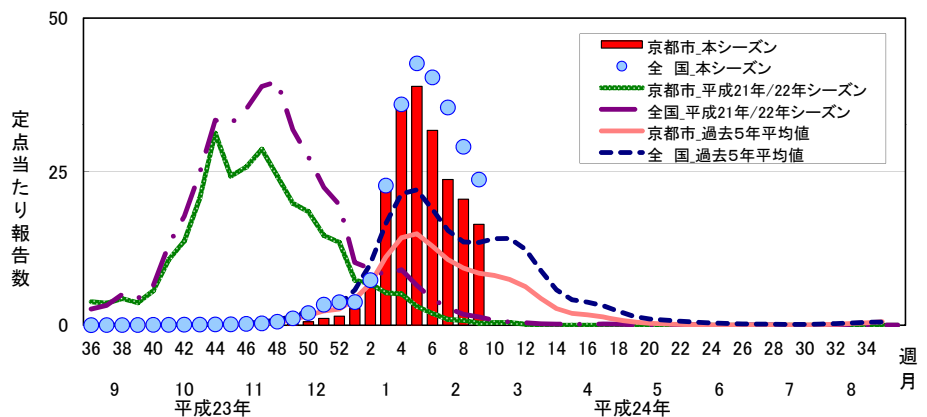
◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第9週)と先週(第8週)の定点当たり報告数の比較



2 インフルエンザの推移

週	報告数(例)
第5週	2,489
第6週	2,029
第7週	1,541
第8週	1,334
第9週	1,068
累積報告数 (第36週以降)	13,385



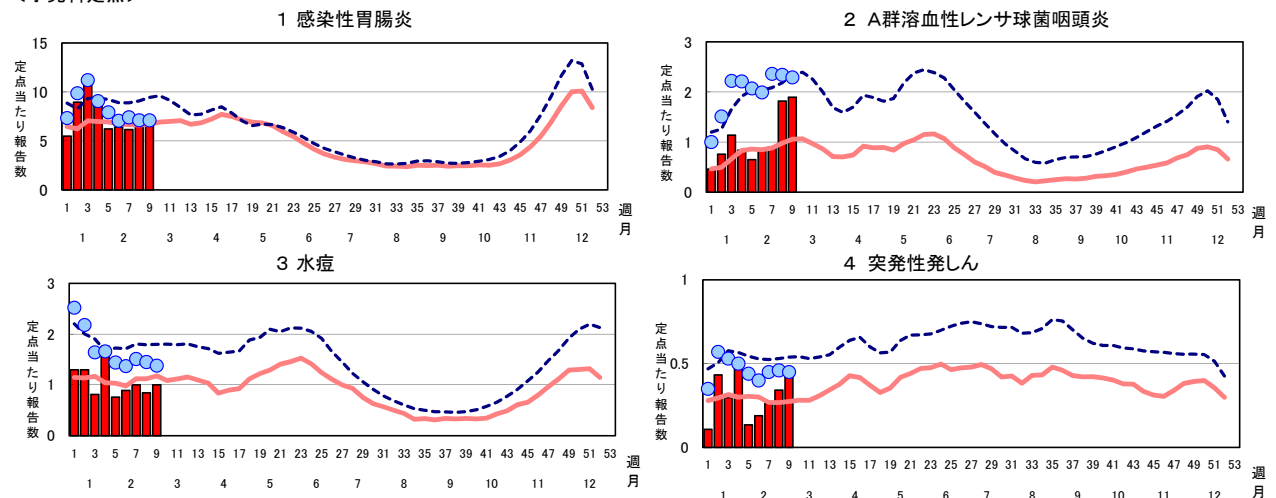
※平成21年/22年シーズンは、新型インフルエンザの発生により、例年と流行傾向が大きく異なるため、別に表記しています。過去5年平均値は、36-52週はH17-H20年及びH22年、1-35週はH18-H21年及びH23年の平均値です。

※京都市のインフルエンザ発生状況の詳細を下記に掲載しています。

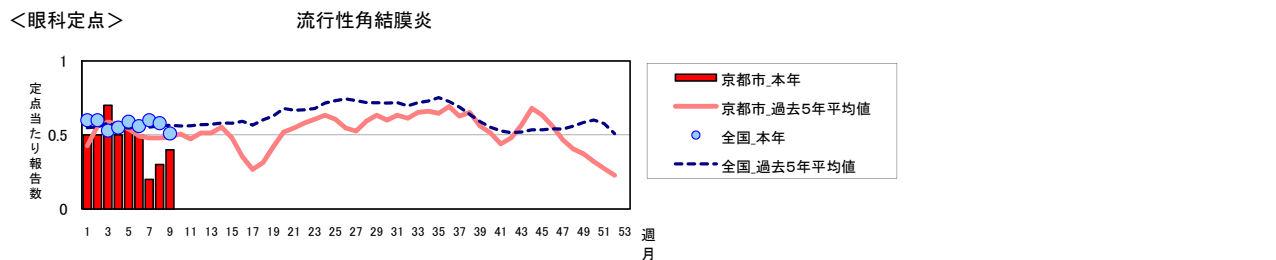
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000071285.html>

3 主な感染症の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



第9週(2月27日～3月4日)トピックス: <A群溶血性レンサ球菌咽頭炎>

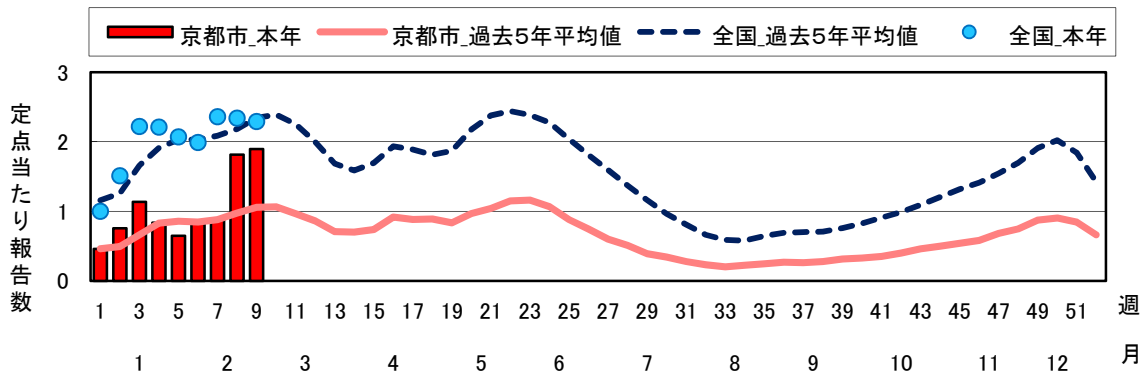
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり報告数は、1.89(72例)で、先週(1.82)に引き続き過去5年平均値を大きく上回っています。例年冬季から夏季にかけて発生が増加しますが、感染経路はヒトからヒトへの飛沫感染が主であるといわれており、冬休み、春休み、ゴールデンウィークなどの発生の少ない谷間がみられています。

京都市及び全国の病原体定点からの病原体検出数においても、A群溶血性レンサ球菌の検出数は、8～10月に少なくなっています。

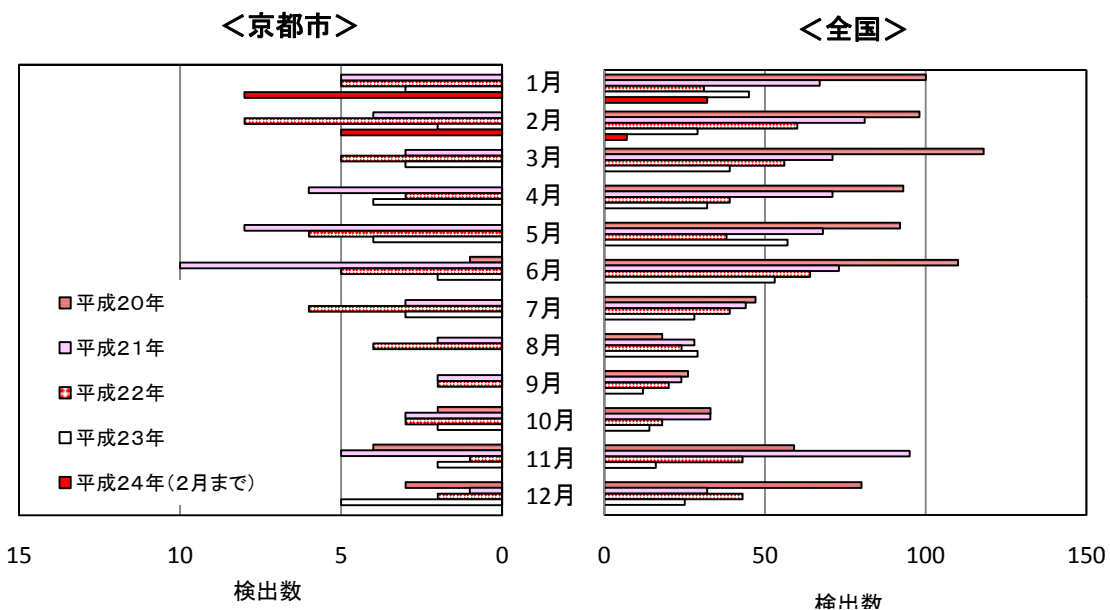
年齢階級別にみると、幅広い年齢階級から報告がありますが、今年は10～14歳の割合が少し増えています。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎については下記を御参照下さい。(国立感染症研究所:感染症の話)
http://idsc.nih.go.jp/idwr/kansen/k03/k03-37/k03_37.html

京都市及び全国の定点当たり報告数の推移



A群溶血性レンサ球菌月別検出数の推移



京都市の年齢階級別定点当たり報告割合の推移

